

日本労働年鑑 第55集 1985年版
The Labour Year Book of Japan 1985

第二部 労働運動

XI 労働組合と平和・社会運動

6 反軍・反基地・反安保闘争

池子弾薬庫返還市民大会

八三年八月二七日、逗子市議会と同市池子接收地返還促進市民協議会の主催で、米軍池子弾薬庫への米軍住宅建設(約一〇〇〇戸と関連施設)に反対する「池子弾薬庫全面返還・米軍住宅建設適地撤回市民大会」が同市市民体育館で開かれ、約六〇〇人が参加した。集会では三島虎好市長が決意を表明し、長洲一二神奈川県知事も「池子の緑を残すことは県民全体の強い願い。最後まで頑張ろう」と訴えた。

日米共同演習反対舞鶴集会

八三年九月二五日～一〇月五日におこなわれた過去最大の日米共同演習、海上自衛隊大演習に抗議する「核空母カール・ビンソン日本入港反対、日米共同演習、海上自衛隊日本海大演習反対、安保条約廃棄全京都舞鶴集会」が、八三年九月二五日、京都平和委、京都原水協など一〇団体の主催で開かれ、舞鶴市役所前での集会には約七〇〇人が参加した。また、この日からの「舞鶴基地監視抗議行動」を皮切りに、一〇月五日までキャラバン宣伝や基地調査、小集会などが取り組まれた。

日米合同陸上実働演習抗議集会

八三年一〇月二日、札幌市南区の真駒内駐屯地近くのあけぼの公園において、道平和委、安保破棄道実行委など七団体主催で、一〇月四～一七日のあいだ北海道大演習場で予定されている日米合同陸上実働演習「ヤマト83」に抗議する全道抗議集会が開かれ、約五〇〇人が参加した。

また、一〇月九日には、反安保・反基地、反核全国指導委員会と北海道日米合同演習反対闘争委員会の主催で、「今こそ反核、軍縮・平和の実現を！一〇・九日米合同実働演習反対全国集会」が開催された。

下総基地米軍使用反対集会

八三年十一月三日、千葉県白井町・七次公園において、下総基地の米軍使用に反対する五市二町連絡協議会、白井町町議会・区長会合同会議などの主催で、「下総基地の米軍使用に反対する11・3住民集会」が開かれ、約一万人が参加した。

第五回富士山麓総行動

八三年十一月五～六日、平和委、原水協、静岡県実行委員会の主催による「第五回富士山麓総行動」がおこなわれ、六日正午から富士山新五合目・太郎坊の駐車場で開かれた集会には、約五〇〇人が参加した。

ミッドウェー艦載機訓練基地反対集会

八三年一月一三日、米空母ミッドウェー艦載機の代替訓練基地候補にあげられている航空自衛隊静浜基地をかかえる静岡県大井川町の大井川中グラウンドにおいて、「ミッドウェー艦載機訓練基地反対決起集会」が開かれた。大井川町、町議会、町自治体が共催して開かれたこの集会には町民の一〇分の一にあたる二〇〇〇人が参加し、代替訓練基地化に「総意をもって強く反対する」との決議が採択された。

グリーンベレー配備抗議行動

八四年三月一七日、米国防総省は沖縄県読谷村とりいステーションへの米特殊部隊配備を発表し、すでに一部先遣部隊が配備されていることが確認された。これにたいし、四月二五～二六日、県労協・社会党県本部など二一団体が構成する「行動委員会」代表一六名が上京し、総理官邸・外務省・防衛庁・米大使館などに反対を申し入れ、嚴重に抗議した。

反トマホーク全国統一行動

トマホークの米太平洋艦隊への配備を目前にした八四年五月二七日、トマホークくるな連絡センター主催による統一行動が全国各地で展開された。横須賀の行動には四万二〇〇〇人が参加し、正午から横須賀臨海公園と野島公園で第一次集会を開催。不破哲三共産党委員長のあいさつなどがなされた。午後二時を期して、米軍横須賀基地と浦郷弾薬庫のあいだを八キロにわたって「人間のくさり」で結び、同時に入港中の空母ミッドウェーに向かったの海上抗議デモもおこなわれた。さらに、神奈川県内の参加者を中心に午後二時半から第二次集会が臨海公園で開かれ、小笠原英三郎平和委員会会長や上田耕一郎共産党副委員長によるあいさつなどがおこなわれた。また、これらと並行して、塚山公園で「音楽の広場」、勤労会館で「反核映画会」も開かれた。

他方、米原潜への通信基地・愛知県刈谷市の米海軍依佐美送信所にたいする行動には、東海四県から一万一五〇〇人が参加。午後三時四〇分すぎには約四キロの「人間のくさり」で基地を包囲した。このほか、舞鶴(京都府)に二万七〇〇人、八戸(青森県)に六五〇〇人、岩国(山口県)に五〇〇〇人、佐世保(長崎県)に三五〇〇人、札幌に九〇〇人が集まり、神戸港で二〇〇人が海上デモをおこなうなど、全国各地で多彩な行動が取り組まれた。

トマホーク配備反対全国抗議行動

八四年六月一～一〇日、総評・社会党・護憲連合・原水禁が全国で取り組んだトマホーク配備反対の抗議行動は全国九ブロックでおこなわれ、集会五四二カ所、延べ参加人数三七万二八〇〇人に及んだ。このうち、一～七日のあいだ基地近くで連日二〇〇人がすわりこんだ横須賀市では、六月三日に臨海公園で関東ブロックの集会が開かれ、一万六〇〇〇人が参加した。また、一～三日のあいだ岩国基地北口ゲート前ですわりこみに入った岩国でも六月三日に中・四国岩国集会が取り組まれ、約六〇〇〇人の労働者が参加し、市内をデモ行進した。この間に取り組まれた各ブロックの主な行動は、つぎのようになっている。

(1) すわりこみ行動

- ・三沢基地(六・八～六・九)
- ・横須賀基地(六・一～六・七)
- ・岩国基地(六・一～六・三)
- ・佐世保基地(六・四～六・六)
- ・カテナ(六・二六～七・二)

(2) キャラバン行動

- ・北海道青婦キャラバン(六・五～六・七)
- ・宮崎キャラバン(六・四～六・一二)

・自治労青年部全国キャラバン(六・二～六・一〇)

(3) ブロック別集会

・北海道ブロック「トマホーク配備反対北海道集会」(五・三〇)

・東北ブロック「F16・トマホーク配備反対・核燃料サイクル基地建設反対・非核三原則厳守三沢集会」(六・一〇)

・北陸ブロック「トマホーク配備と軍事優先政策に反対する北信越集会」(六・一〇)

・関東ブロック「トマホーク配備反対、非核三原則厳守、日本を核戦場にするな！ 六・三横須賀集会」(六・三)

・中部ブロック「トマホーク配備反対六・一七東富士抗議集会」(六・一七)

・中四国ブロック「トマホーク配備反対、非核三原則厳守・岩国基地撤去、日本を核戦場にするな！ 中・四国ブロック六・三大集会」(六・三)

・沖縄ブロック「米特殊部隊・トマホーク配備反対県民集会」(七・三)

安保廃棄全国統一行動

現行安保条約発効二四周年の八四年六月二三日、安保破棄・諸要求貫徹中央実行委員会は「政党法粉碎、トマホークくるな！ 国民生活防衛、安保条約廃棄」の緊急共同課題をきっかけ、安保廃棄六・二三全国統一行動を展開した。東京では新宿・池袋などの主要駅頭で街頭宣伝活動が取り組まれ、安保破棄諸要求貫徹大阪実行委と大阪統一労組懇・大阪青学連の三者共催で開かれた扇町公園での大阪集会には約五〇〇〇人、福岡県大集会には約二〇〇〇人、京都集会には約一八〇〇人、愛知県集会には一三〇〇人、札幌市の北海道集会には一一〇〇人、県労協・社・共など一二団体の実行委員会主催の福島集会には七五〇人が、それぞれ参加した。

反トマホーク行動デー

六月二四日、原水禁一九八四年世界大会準備委員会の提唱した「反トマホーク行動デー」が取り組まれた。東京・明治公園では総評・原水禁などの主催による集会が開かれ、二万五〇〇〇人が参加した。集会では、黒川総評議長の主催者代表あいさつの後、来賓として出席した世界大会準備委員会代表委員の中林貞男生協連会長が「最近、平和運動の統一が乱れようとしている。今こそ、平和を願う主婦、市民、労働者が気持ちを一つにし、世論の力で核戦争を防ぐことが大切だ」と訴えた。また、多摩ニュータウン・永山南公園でも生協連・地婦連・日青協など九つの市民団体による「反核・平和市民のつどい」が開かれ、約二〇〇人が参加した。

この日の集会については、原水禁世界大会準備委員会で主催するよう総評などが働きかけていたが、五月末の準備委員会の会議で原水協や平和委員会がこれに反対し、結局、反トマホークデーとしてそれぞれの団体で行動を展開することになった。

なお、アメリカの核搭載可能艦船の入港にたいする反対・抗議行動やトマホーク配備反対集会の主なものについては、第94表参照。

日本労働年鑑 第55集 1985年版

発行 1984年12月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月21日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
